

# 日常生活復歸のシグナルを見極める

2020年4月6日

twitter「china tips by myokoi」 主持人 横井正紀  
myokoi6212@gmail.com

感染者数が増加し、それが収束に向かう傾向までのビヘイビアは、中国の各都市のデータからわかることがある。

#### ■中国のデータからわかる日常生活復帰へのシグナル

下記の図は、上海市と北京市の「現在の確診患者数（確診）」と「治癒した人（治癒）」の状況を示したものである。これらを見ると次のことが言える

- 1) 現在の確診患者数が一定になり約1週間で減少傾向に転じる
- 2) 「現在の確診患者数」と「治癒した人」の数が逆転するゴールデンクロスを迎え、「現在の確診患者数」の減少が加速する。

このゴールデンクロスをいつ迎えるかを見極めていくことが、きわめて重要である。感染症は慣性力があるボールのようで、突然止まることはない。見極め上重要なポイントは

「確診患者数を一定に保つ傾向を維持すること」

である。これを約1週間保てれば、次のステージに進むことができる。

#### ■今の東京のレベルは上海市、北京市のレベルを超える状況

上海市の場合、2月1日から3月1日までは巣籠モードで市民は生活を行い、3月2日に市政府は業務再開モードに切り替えた。

上海市

人口は約2400万人、累計感染者数は536人（4月6日現在）

北京市

人口は約2100万人、累計感染者数は587人（4月6日現在）

東京

人口は1400万人、累計感染者数は1116人（4月6日現在）

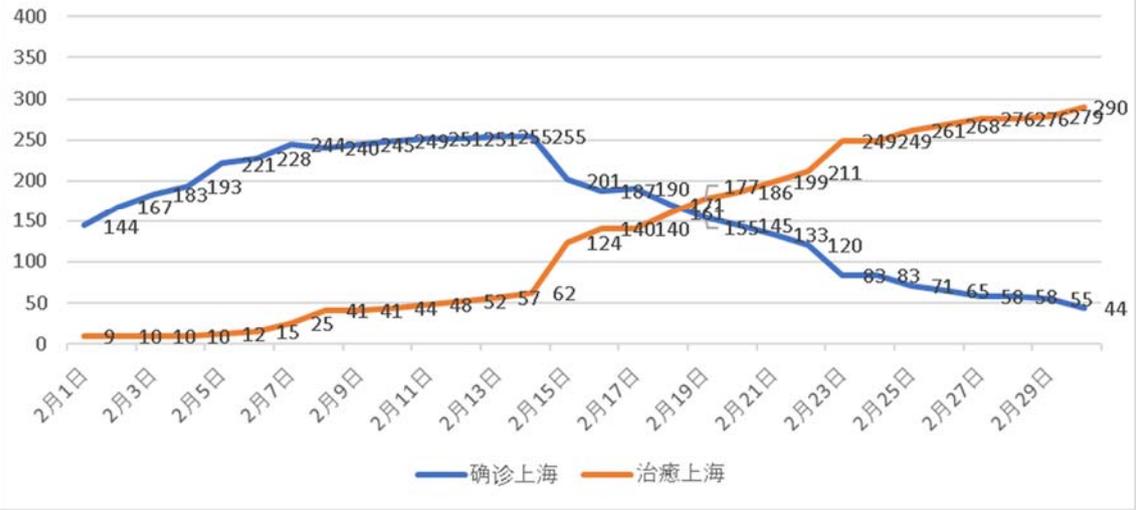
である。4月6日現在の東京の感染者数は、人口比率で割り戻すと上海市で1900人の感染者数がある計算になる。上海市が緊急事態を宣言したのは、初めての死者が出た1月26日である。当時の感染者数は53名だった。それが1週間後には167人になった。

#### ■確診患者数を一定に保つ天井を早く作り出すことが優先課題

感染症対策は初動が大事である。1日遅れると感染者数は更に増える傾向があると専門家はいう。時間は巻き戻せないで、初期値を変えることはできない。よって、「確診患者数を一定に保つ天井を、いかに早く作り出し、それを維持するか」が、日常生活正常化の第一歩になると、中国のデータ分析からわかる。

（文責：横井正紀）

### 上海新型肺炎推移



### 北京新型肺炎推移

